

JENESYS^桜2025

令和7年度対日理解促進交流プログラム
「JENESYS2025Part1」
及び「JENESYS2025Part2」
(対象国：太平洋島嶼国、豪州、ニュージーランド)

招へいプログラム報告書

icos



実施団体：一般社団法人国際協力サポーターズ・株式会社日本旅行 共同企業体

1. プログラム概要

【目的・概要】

太平洋島嶼国が抱える課題のうちから『海洋と環境』『気候変動と防災』『観光（と日本文化）』の3つのコーステーマを設定し、それぞれのテーマに関心を持つ太平洋島嶼国の高校生・大学生等41名が、日本の文化に触れながら、その課題解決へのヒントを学び将来に活かすべく、1月14日から21日まで来日しました。そのうち1コースでは、プログラム実施中にオンラインでつなく、ハイブリッド形式にてオンライン交流も同時に開催しました。

一行はそれぞれ、太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク（PALM&G）に参加している徳島県及び香川県、兵庫県、秋田県に分かれ、各テーマに取り組む行政機関や団体からの講義、施設の視察、意見交換などを通して理解を深めたほか、日本の同世代の学生との交流プログラムやホームステイでは日本文化の理解を深め、相互理解の深化や友好関係構築の更なる強化を目指しました。

【コーステーマと訪問先（参加者数）】

- 『海洋と環境』コース
徳島県及び香川県（計10名：大学生9名、引率1名）
- 『気候変動と防災』コース
兵庫県（計10名：大学生9名、引率1名）
※オンライン交流プログラム同時開催（大学生5名）
- 『観光と日本文化』コース
秋田県（計21名：高校生18名、引率3名）





【テーマ・訪問先別出身国リスト】

コース名	海洋と環境	気候変動と防災	観光と日本文化	
国名(↓) 訪問先(→)	徳島県・香川県	兵庫県	秋田県	国別計
フィジー	3	(2)		5
キリバス		1(1)		2
マーシャル諸島		1(1)		2
ミクロネシア		2		2
ナウル	1	1		2
パラオ		2		2
パプアニューギニア	1			1
サモア	2			2
ソロモン	2			2
トンガ	1		7	8
ツバル			7	7
バヌアツ		2		2
クック諸島		1		1
ニウエ		(1)	7	8
コース別計	10	10(5)	21	

※ () 内はオンライン参加数

2. 実施日程・活動内容

<プレ・プログラム>

プレ・プログラム実施日	2026年1月6日(火) 13:00-15:00
実施形態	オンライン (ZOOM)
参加数	61名 (参加者48名/スタッフ・通訳等13名)
プログラム内容	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラム概要及びプログラム参加にあたっての心得 (ICoS) ●コース別プログラム内容紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(参加者、CDN、通訳) ・プログラム紹介 ・アレルギー等情報確認 ●入国時ガイド (NTA)
プレ・プログラムの様子 (抜粋)	
上：参加の様子 下：コース別プログラム紹介	<p>1/17 (Sat)</p> <ul style="list-style-type: none"> • A walking tour of a city rebuilt after a major earthquake. (Hybrid session) • Japanese tea ceremony experience. (Hybrid session) • A stroll through the historic brick warehouses. • Homestay   <p>For the tea ceremony experience, please bring white socks with you.</p> 

<招へいプログラム (招へい中)>

海洋と環境コース (徳島県・香川県)

1月14日(水)

- ・成田国際空港より入国
- ・【視察】皇居周辺
- ・来日オリエンテーション (国立オリンピック記念青少年総合センター)

1月15日(木)

- ・【視察】浅草寺・明治神宮
- ・徳島県へ移動

1月16日（金）

- ・【講義】【意見交換】『徳島市のSDGsへの取組について』
講師：徳島市企画政策部 SDGs推進室（Co×lab Tokushima）湯浅係長
- ・【表敬訪問】後藤田正純徳島県知事
- ・【視察】ひょうたん島周遊船の電動化 ※Co×lab Tokushimaが民間企業と連携して取り組む再生可能エネルギーの活用事例
- ・【文化体験】阿波踊り会館訪問

1月17日（土）

- ・【視察】【意見交換】上勝町ゼロ・ウェイストセンターWHY
講師：株式会社BIG EYE COMPANY 木佐貫 拓真 氏
- ・【文化体験】藍染体験 | 場所：藍の館
- ・【文化体験】ホームステイ入所式、ホームステイ

1月18日（日）

- ・【文化体験】ホームステイ解散式
- ・【視察】マルキン醤油記念館
- ・【講義】【意見交換】『海洋ごみ回収と再資源化への取組について』
講師：特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンブル
安井 卓也 副理事長

1月19日（月）

- ・【学校交流】徳島県立科学技術高等学校（海洋科学コース）
内容：海洋生物の研究、わかめ栽培の実験見学、実習船での海洋観測実習体験、文化交流
- ・東京へ移動

1月20日（火）

- ・【講義】【意見交換】『太平洋の海洋環境変化について』
講師：国立研究開発法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）地球環境部門
大気海洋相互作用研究センター 海洋気候研究グループ
植木 巖グループリーダー
海洋生物環境影響研究センター 海洋プラスチック動態研究グループ
Shiye Zhao 主任研究員
- ・【報告】訪日での学びや気づき、帰国後の活動計画発表
- ・【視察】秋葉原

1月21日（水）

- ・【視察】日本科学未来館
- ・成田国際空港より出国

気候変動と防災コース（兵庫県）

「*」…オンライン参加も兼ねたハイブリッド開催

1月14日（水）

- ・成田国際空港より入国
- ・【視察】皇居周辺

* 来日オリエンテーション（国立オリンピック記念青少年総合センター）

1月15日（木）

- ・【視察】浅草寺
- ・【視察】防災体験学習（そなエリア東京）
- ・兵庫県へ移動

1月16日（金）

* 【講義】【意見交換】『震災の教訓を生かす～兵庫県の防災・減災対策』

講師：兵庫県危機管理部災害対策課 安田 寛治 副課長

・【視察】人と防災未来センター

* 【学校交流】関西学院大学

内容：大学紹介、国連ユースボランティアプログラム活動発表、
文化紹介、意見交換、夕食交流会

意見交換テーマ：『日ごろからの防災への備え』『ハザードマップ活用状況』
『各国の防災制度や体制等』『学生災害支援ボランティア』

1月17日（土）

* 【視察】【意見交換】1.17 震災メモリアルウォーク（街歩き）

協力：青年海外協力隊兵庫県OB会

ルート：三宮BT→東遊園地（追悼行事会場）→神戸港震災メモリアル
パーク（メリケンパーク）→元町

* 【文化体験】茶道体験 | 湊川神社 茶室

講師：兵庫県茶道協会

・【文化体験】ホームステイ入所式、ホームステイ

1月18日（日）

・【文化体験】ホームステイ解散式

* 【講義】【ワークショップ】『災害への対処におけるアプローチ手法とは』

講師：被災地NGO協働センター 頼政 良太 代表

特定非営利活動法人CODE 海外災害援助市民センター
吉椿 雅道 事務局長

1月19日（月）

- ・【視察】姫路城
- ・東京へ移動

1月20日（火）

- ＊【報告】訪日での学びや気づき、帰国後の活動計画発表
- ・【視察】秋葉原

1月21日（水）

- ・【視察】日本科学未来館
- ・成田国際空港より出国

観光と日本文化コース（秋田県）

1月14日（水）

- ・成田国際空港より入国
- ・【視察】皇居周辺
- ・来日オリエンテーション（国立オリンピック記念青少年総合センター）

1月15日（木）

- ・【視察】浅草寺
- ・秋田県へ移動

1月16日（金）

- ・【表敬訪問】秋田県観光文化スポーツ部 高島友行 次長
- ・【講義】【意見交換】『秋田県の観光資源について』
講師：秋田県観光文化スポーツ部 誘客推進課
調整・国内誘客チーム 柴田 潤也 チームリーダー
- ・【視察】【日本文化】男鹿総合観光案内所・なまはげ館・男鹿真山伝承館

1月17日（土）

- ・【視察】【日本文化】三吉梵天祭※ | 太平山三吉神社総本宮
※1年に1度のみ開催される郷土のお祭り。五穀豊穰の他、町内の安全や無事故、一年間の幸せを祈り、梵天を神社に奉納する神事。
- ・【講義】『仙北市のインバウンドグリーンツーリズムの取組について』
講師：仙北市観光文化スポーツ部交流デザイン課 伊藤 カオリ 課長
- ・【文化体験】農泊入所式、農泊体験

1月18日（日）

- ・【文化体験】農泊解散式
- ・【視察】【文化体験】伝統芸能体験プログラム | 秋田芸術村・わらび座
- ・【視察】角館武家屋敷群

1月19日（月）

- ・東京へ移動
- ・【学校交流】國學院大學観光学科
内容：各国の観光名所・生活習慣等の意見交換、文化紹介、茶話会

1月20日（火）

- ・【報告】 訪日での学びや気づき、帰国後の活動計画発表
- ・【視察】 秋葉原

1月21日（水）

- ・【視察】 日本科学未来館
- ・成田国際空港より出国

3. 記録写真

海洋と環境コース（徳島県・香川県）



1/14 来日オリエンテーションの様子



1/15 【視察】おみくじ体験@明治神宮



1/16 【表敬訪問】後藤田正純徳島県知事



1/16 【文化体験】阿波踊り会館



1/17 【講義】上勝町ゼロ・ウェストセンター



1/18 【文化体験】ホームステイ解散式



1/18 【講義・意見交換】クリーンオーシャンアンサンブル



1/19 【学校交流】徳島県科学技術高校と交流

気候変動と防災（兵庫県）



1/14 【視察】 皇居 | 他グループと集合写真



1/15 【視察】 そなエリア東京



1/16 【学校交流】 関西学院大学との交流



1/17 【視察】 震災メモリアルウォーク



1/17 【文化体験】 茶道体験@湊川神社



1/17 【文化体験】 ホームステイ



1/18 【ワークショップ】 災害への対処法



1/19 【視察・文化理解】 姫路城

観光と日本文化コース（秋田県）



1/15 【文化体験】雪@秋田空港



1/16 【視察】なまはげ文化



1/16 【視察】男鹿真山伝承館



1/17 【文化体験】三吉梵天祭



1/18 【文化体験】ホームステイ解散式



1/18 【視察】秋田芸術村わらび座



1/19 【学校交流】國學院大學との交流



1/20 【報告会】活動計画発表

4. 参加者の声（抜粋）

海洋と環境コース（徳島県・香川県）

- サモア（大学生）
訪れた場所はどこもよく整備され、清潔で、工夫が凝らされていて、とても印象に残りました。
- フィジー（大学生）
一番良かったのは、現地の学生や専門の方たちと直接交流できたこと、学校や施設での実践的な学び、地域活動を通じて文化に触れられたこと、そして自由に意見交換できたことです。そうした経験が訪問を本当に意味のある、印象深いものにしてくれました。
- トンガ（大学生）
海や海岸でのごみ収集、それにごみの分別などは、すごく発展した先進的な技術が整っているだけでなく、知恵や工夫がなされていることに驚きました。
- ソロモン（大学生）
日本の都市や交流が行われた場所の景観は本当に息をのむほど美しかったです。インフラや植栽の配置はとても整然としていて、色合いも調和が取れていました。伝統的な素材と現代的な素材が建築に融合していて、まるでアニメやジブリの世界に入り込んだような気持ちになり、子どもの頃から憧れていた夢が叶ったようでした。
また、日本が自分たちの歴史を丁寧に記録し保存していることに感動しました。藍染めや阿波おどり会館、醤油づくりなどの文化を学ぶことができ、博物館での体験型の活動はまるで時をさかのぼるようで、楽しみながら学ぶことができました。そして最後に、日本の人々の礼儀正しさと親切さに心を打たれました。滞在中は素晴らしいおもてなしのおかげで快適に過ごすことができました。

気候変動と防災コース（兵庫県）

- キリバス（大学生）
関西学院大学での学生との交流ができたことは、とても刺激的でよかったです。
- パラオ（大学生）
東京のそなエリア防災センターで体験した実践的なプログラムがとても印象的でした。実際に被災した地域がどのような状況なのか、そこでどのようなアクション

ンをとることが大事なのか等、リアリティをもって学習できたことは、とても貴重な経験でした。

- ニウエ（高校生）【オンライン参加】

交流や訪問で最も印象的だったのは、大きな地震の後に再建された地域を歩くオンラインツアーを通じて、日本の都市を仮想的に探検できたことです。都市がどのように復興されたのかを見ることは、とても教育的で意義深いものでした。特に、災害で失われた人々や建物に捧げられた慰霊碑は、その出来事の感情的・歴史的な意味を伝え、地域社会の強靭さや復興における記憶の重要性を強調していました。オンライン参加であっても、日本が喪失を敬いながら前進していく姿勢について貴重な洞察を得ることができました。

- フィジー（大学生）【オンライン参加】

どの訪問先でも交流がすごく楽しかったです。特に関西学院大学での学生交流が一番印象に残っています。学生たちと直接会って話せたのが嬉しくて、ディスカッションもすごく楽しかったです。他の訪問でもホストや現地の人たちとたくさん話せて、まるで仲間の一員になったような気持ちになりました。交流は本当に楽しかったです。

観光と日本文化コース（秋田県）

- ニウエ（引率）

日本文化の大切な遺産や生活のあり方、仕事に対する姿勢、文化を守り続ける誇りと喜び、そして家族を大切にする価値観など、たくさんの方に感銘を受けました。

- トンガ（高校生）

訪問先での交流はすごくためになって、体験的でやり取りも多かったので、理解が深まってより良い経験になりました。

- トンガ（高校生）

一番の思い出はホームステイです。たった一泊でしたが、秋田の伝統的な生活を少し体験できて、とても印象に残りました。

- ニウエ（高校生）

プログラム全体がとても勉強になり、私たち太平洋の国々にとって励みになりました。知らなかったことを学ぶことができ、また普段気づかない所作やその意味

を知ることができました。訪問先ごとに大切な学びがあり、本当に心からのつながりをたくさん作ることができました。これからもそのつながりを大事にしていきたいです。

- ツバル（高校生）

プログラム全体で、どっぷりと文化に浸る体験ができました。この没入型の体験は私の宝です。

5. 受入れ側の声（抜粋）

- 上勝町ゼロ・ウェイストセンターWHY 株式会社 BIG EYE COMPANY

木佐貫 拓真 氏（海洋と環境コース/徳島県）

現地での見聞や体験が、地域や環境、そして皆さまの専門分野について考えを深める一助となっておりますら幸いです。上勝町での実践は、日々試行錯誤を重ねながら更新し続けているプロセスそのものです。今回の研修が、学生の皆様にとって「正解を知る」こと以上に、「問い続けること」や「自分ごととして考えること」のきっかけとなっていれば幸いです。

- 特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター

吉椿 雅道 事務局長（気候変動と防災コース/兵庫県）

普段、海外の災害被災地支援を行っておりますが、南太平洋島嶼国では、2022年のトンガの海底火山噴火の支援を遠隔で行った程度しか経験がなかったのですが、今回の企画を機に色々と勉強させていただくことができました。

また、参加された若い皆さんがしっかりしていて、ワークショップでもそのコメントなどから現状把握や危機感なども感じました。参加者の方の「小さい国だけど、小さいからこそやれることもある」と言っていたのが非常に印象的で、僕が一番伝えたかった自助、共助とマッチしたのでうれしかったです。

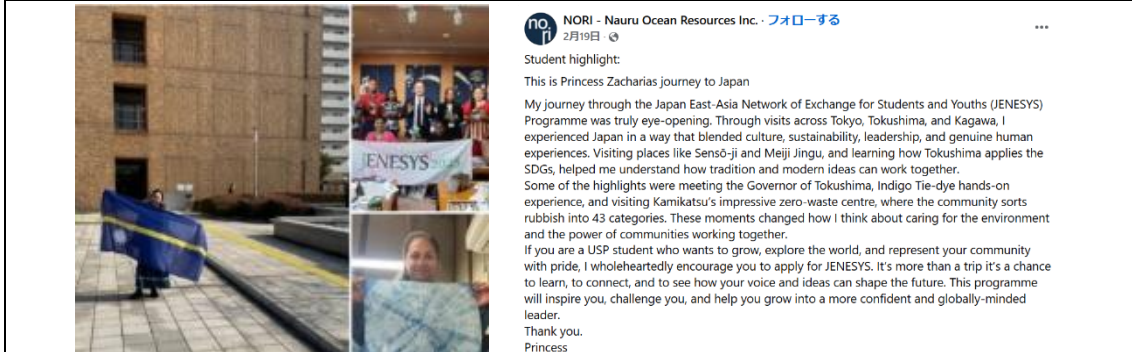
- 秋田芸術村・一般社団法人わらび座

吉田 友子 氏（観光と日本文化コース/秋田県）

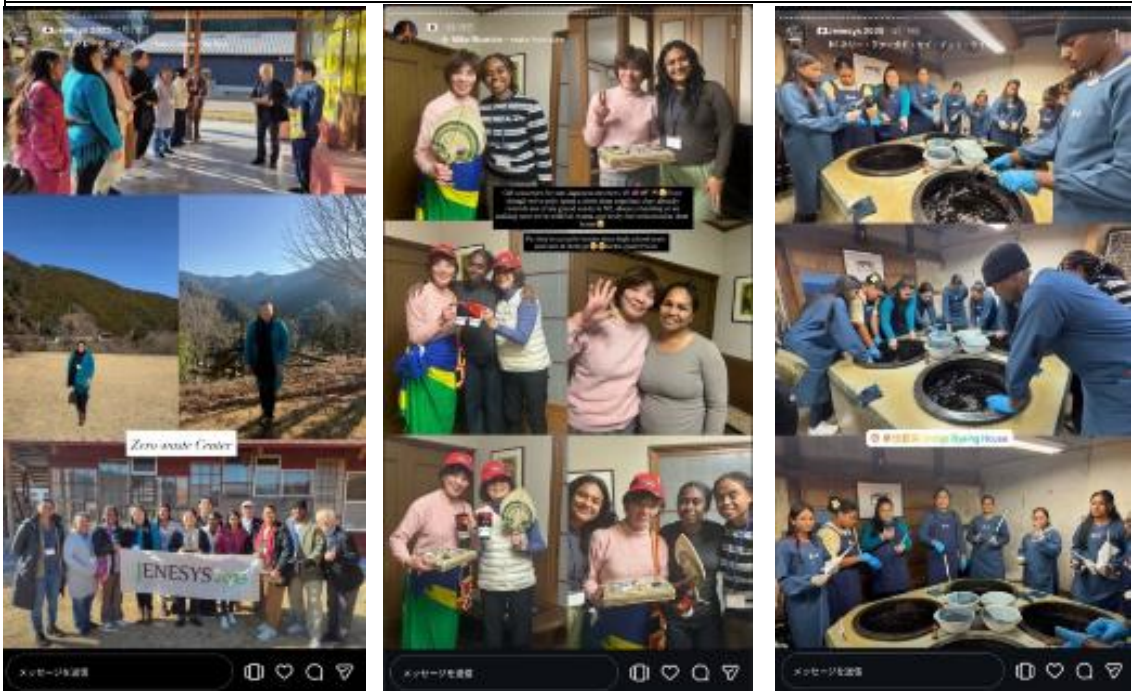
これまで秋田から世界へ、世界から秋田へ、民俗芸能を軸にした交流を育んできました。今回、南太平洋の青年の皆さんお迎えし伝統芸能を体験していただいたことは、わらび座の役者にとっても貴重な体験でした。この機会をいただいたこと、感謝申し上げます。

6. 対外発信・報道（抜粋）

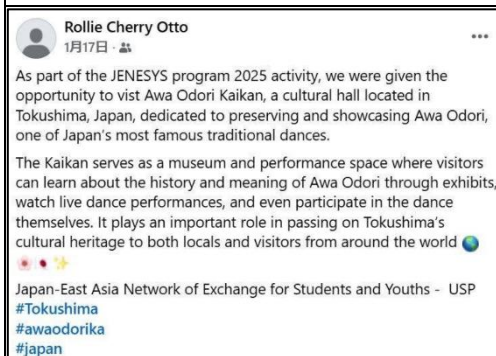
海洋と環境コース（徳島県・香川県）



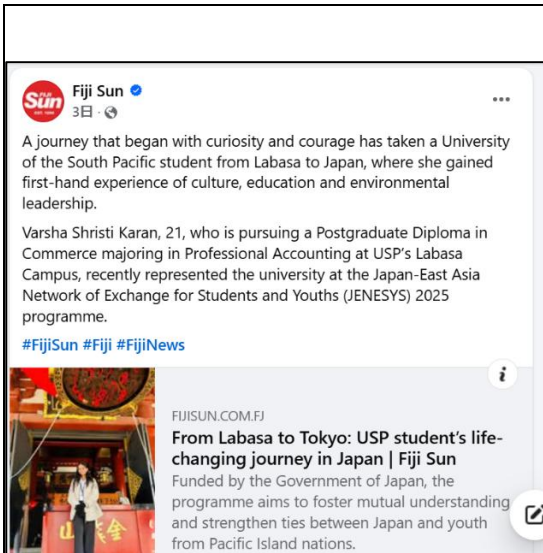
（大学生_ナウル | Facebook）徳島県知事との面会、藍染めの体験、そしてゴミを43種類に分別する神山町の印象的なゼロ・ウェイストセンターの訪問——これらの瞬間は、環境を大切にすることや、地域社会が協力し合う力についての私の考え方を大きく変えてくれました（一部抜粋）。



（引率者_フィジー | Instagram）日々の活動、訪問先での様子を紹介。



（学生_ソロモン諸島 | Facebook）阿波おどり会館は、展示を通じて阿波おどりの歴史や意味を学べる博物館であり、同時に演舞場として生の踊りを鑑賞したり、実際に踊りに参加することもできる場所です。徳島の文化遺産を地元の人々や世界中から訪れる人々に伝える重要な役割を担っています。（一部抜粋）



(Fiji SUN/フィジーウェブサイトニュース | Facebook) 参加したフィジー大学生への取材記事が掲載されました。

『JENESYS 2025 への参加は、私にとって真に変革的な経験となりました。日本の文化、環境への取り組み、そして若者育成への強い姿勢についての理解を一層深めることができました。』

(在パプアニューギニア日本大使館 | Facebook) 参加者の帰国後報告メッセージを掲載いただきました。

『 # JENESYS(対日理解促進交流プログラム)プログラムを通じて日本を訪れたシャニア・トーマスさんが、日本での学びや経験についてメッセージを寄せてくれました。』シャニアさんは「日本の文化やイノベーション、そして海洋・環境保全への取組に触れる中で、自分の視野が大きく広がり、物事の捉え方が深まった」と振り返ってくれました。』



(徳島テレビ公式チャンネル | Youtube)

徳島県での1日目プログラム(1/16)に、地元ケーブルテレビ(徳島テレビ)より密着取材をしていただきました(1/23放映)。

また、以下公式YouTubeチャンネルにてその様子がアップされました。

<https://www.youtube.com/watch?v=r79buFZCZb4>

気候変動と防災コース（兵庫県）

Lay David Amor
1月22日

I came to Japan with least expectations of learning since I have always love Japan because of its car culture. To say that my perspective changed would be an understatement because it did more than that. Throughout this program I learned numerous things that elaborated on our theme "climate change and disaster prevention". I came to understand that even a country as big as Japan is experiencing this topic. Japan has experienced if not the most but some of the worst disasters in the world. From the Great Hanshin-awaji earthquake in 1995 Japan or specifically Kobe was nearly destroyed. This earthquake impacted the livelihoods of many people and even took the life of others. The destruction. The fear. And simply the Lost were three simple words to explain such event. Up until today it is still a practice to remember what happened on January 17 1995. I had the opportunity to experience this tragedy through visual aid (videos, drawings, and stories etc). It was more than an earthquake. It was a change. Change of lifestyle. Change of perspectives. Change of renovation. And change of mindsets. Even with such great loss Japan managed to use this specific tragedy to help teach the general public methods of preventing disasters and simply the importance of "preparedness". It had me wondering if a country so advanced like Japan is worrying and stating that their prevention methods and awareness are not yet enough, what will come for my homeland? Are we ready? Can we face it? Do we even consider natural disasters as something serious or not? These are the questions that needs to be addressed. I believe that preparing for something is better than being underprepared. Therefore, being able to attend lectures that help deepen my understanding of such events and methods will always be worth it. Working alongside different people from different countries foreshadows the importance of teamwork. We might have different ideas but that is what makes it unique. It helps strengthens and shape our ideas into realities. Somewhere along the way We learned about a saying "Think Globally, act Locally". This is a powerful message for it enhances the importance of our tomorrow. We think globally but we act locally. To help out should start from something small such as posting and helping the general public grasp something like this. A lot more were learned but the important thing were the friendships made, understandings formed, connections to NGO's shared and even the cultural exchanges practiced. I believe that this program have helped us in many ways far beyond textbooks could teach. This is just one part of the program that I wanted to highlight. I hope that students will find the interest into learning these things so we can give back to our communities. Thank you #JENESYS2025, and everyone whom partnered up into making this trip and two weeks of lectures possible. Arigatou Gozaimasu.



(大学生_ミクロネシア | Facebook) ※一部抜粋

日本は大きな悲劇を経験しながらも、それを教訓として国民に防災の方法や「備え」の重要性を伝える機会に変えてきました。技術的に進んだ国である日本でさえ「まだ十分ではない」と警鐘を鳴らしていることを考えると、自分の祖国は果たしてどうなのか、備えはできているのか、災害を本当に深刻なものとして捉えているのか——そうした問いを投げかける必要があります。準備しておくことは、備えが足りないまま直面するよりもはるかに良いのです。「Think Globally, Act Locally」。これは、今回参加して学んだ言葉で、私たちの未来の大切さを強調する力強いメッセージです。(中略) JENESYSに参加することで友情が生まれ、理解が深まり、NGOとのつながりが築かれ、文化交流が実践されたことは私の誇りです。

(大学生_マーシャル諸島 | The Marshall Islands Journal 社への投稿)

JENESYSは若い参加者が気候変動、防災、持続可能な取組など、地球規模の課題に取り組むためのプラットフォームです。現地視察、講義、グループ討議、文化交流活動を通じて、貴重な知識を得ると同時に、リーダーシップ、コミュニケーション、チームワークの能力を養うことができます。

本プログラムは視野を広げ、自信を育み、参加者が地域社会に意義ある貢献を行うための動機付けとなります。世界が共通の課題に直面する中、JENESYSは学び、対話、そして若者の参画が、より持続可能で平和な未来を築くために不可欠であることを示しています。



(大学生_クック諸島 | Facebook) ※一部抜粋

JENESYS プログラムで災害とは単なる自然現象ではないことを学びました。災害とは、地震やサイクロンといった自然現象と、“脆弱性”という社会現象との相互作用なのです。多くの場合、死者の大半は初期の災害そのものではなく、その後に発生する火災、負傷、病気、そして基本的サービスの崩壊によって生じます。これらの影響の多くは防ぐことが可能です。



(青年海外協力隊兵庫県 OB 会 | Instagram)

ホームステイ受入にかかる記事が掲載されました。



(バヌアツ_学生 | Facebook)

帰国後日本の日常について投稿

左 : 世界で一番早い電車、新幹線 毎日運行。

右上 : ホームステイ先の家族とともに “おはようございます”

右下 : 初めての電車 (地下鉄) にて

観光と日本文化（秋田県）



sia_waz_hia • フォロー

[3]
We watched a short film that is based on the origin of the Namahage. But due to privacy reasons and copyright, I can not show you said video.

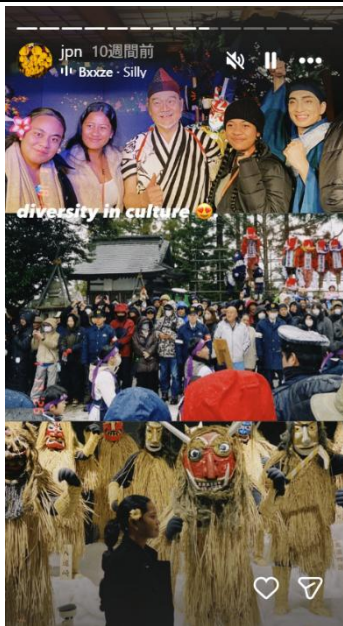
[5-->7]
On our way to view the play of the Namahage ritual, we got to see a multitude of Namahage statues. I was informed by Kimisan that women can also take the job of being Namahage. (Just for you ladies to know 🍷).

[8-->9]
We got to see the ritual of the Namahage and how things would occasionally go. A few flinched, and we all had a good laugh about this day. (Wink @loloahi08)

いいね！ 31件
2月12日

(高校生_ニウエ | Instagram)

私たちはナマハゲの儀式を見学し、その進行の様子を体験しました。儀式の最中には、驚いて身をすくめる参加者も。



(高校生_ツバル | Instagram ストーリーズ)

秋田での学び（多様な文化）や國學院大學との交流の様子、都内での観光名所訪問等についてストーリーズにまとめて投稿



(高校生_トンガ | Instagram ストーリーズ)

日本到着から秋田でのホームステイ、大学交流（文化紹介）などをまとめてストーリーに投稿



(引率者_トンガ | Facebook)

左：雪の降る秋田へ。まずは怠け者を追い払う“なまはげ”について学びました。
右：秋田の皆さん、ご滞在中にいただいた温かいおもてなし、優しさ、そして心遣いに心より感謝申し上げます。

國學院大學 國學院大學メディア
フィジー共和国・南太平洋大学の予備
教育学生らが来校しました(令和
8(2026)年1月19日)

観光まちづくり学部 全ての方向け たまプラーザキャンパス

ポスト シェアする LINEで送る noteで書く

2026年1月20日更新

令和8(2026)年1月19日、フィジー共和国にある南太平洋大学(University of the South Pacific:USP)予備教育(Foundation Program)の学生および引率教員らがたまプラーザキャンパスを訪れました。

本企画は、外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JENESYS(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)」の一環として、実施委託先である一般社団法人国際協力サポーターズ(ICOs)からの依頼を受けて開催されました。異文化理解と相互の親睦を深めることを目的に、「観光と日本文化」をテーマとして、本学観光まちづくり学部の学生9人とトンガ、ツバル、ニウエ出身の学生18人が交流しました。

当日は3グループに分かれ、双方の学生による自国・地域紹介が行われ、文化や観光の特色などについて情報・意見交換を行いました。

最後に、訪問学生によるトンガ、ツバル、ニウエ各国の伝統舞踊が披露され、音楽や衣装、身体表現を通じて多様な文化に触れる貴重な機会となりました。

(学校交流先：國學院大學 | 公式ウェブサイト)

外務省が推進する対日理解促進交流プログラム（JENESYS）の一環として、本学観光まちづくり学部の学生と、トンガ・ツバル・ニウエ出身の学生18人とが交流し、双方学生による自国・地域紹介の他、文化や観光の特色などについて、情報・意見交換を行いました。また訪問学生による各国の伝統舞踊が披露され、音楽や衣装、身体表現を通じて多様な文化に触れる貴重な機会となりました。

7. 活動報告・アクションプラン

海洋と環境コース（徳島県・香川県）	
参加学生9名（引率1名除く）は、3人ずつ3つのグループに分かれ、訪問や交流等で学んだことや気づいたこと、そしてアクションプランについてそれぞれ発表を行いました。	
Group 1 発表	
	
<p>（学びや気づき）</p> <ul style="list-style-type: none">・浅草寺や明治神宮、皇居などの訪問を通じて、日本の伝統文化や自然との調和、そしてなにより人に対する敬う気持ちが息づいている印象を受けました。・地方で具体的に実施しているSDGsへの取組を、県知事や徳島市の行政の方から直接伺うことができたことがとても印象的でした。化石燃料消費から再生可能エネルギーを使った電動モーターで動くクルーズ船の活用や、自然素材を活用した藍染の取組など、自然と向き合って数十年取り組んできた成果が、地域の特徴につながっているのだと感じました。・ゼロウェイスト上勝の視察では、43ものごみ分別がなされ、再利用・リサイクル等の取組が素晴らしいのはもちろん、そこに行きつくまでの経緯などを伺い、地域住民が知恵を出し合いながら、外部からの専門的知見も取り入れながら進めていることに感銘を受けました。 	
<p>（アクションプラン）</p> <ul style="list-style-type: none">・自分たちは“知識のアンバサダー”であることを謳い、日本で学んだことをきちんと共有していくことが責務であると感じています。具体的にはSNSの継続的な活用や、USPのオープンデイなど各種イベントや校外アクティビティなどで日本の紹介や徳島、香川で学んだこと（海洋保全やごみの分別等）を広報していきたいです。・学校交流で訪問した徳島県科学技術高校と提携して、海洋環境に関するオンラインワークショップ等実施できないか、検討していきたいです。・阿波踊りやホームステイでの経験から、地域芸能や伝統文化などを持続可能に発展させていくためにはどうすればよいのか、ディスカッションする場を設けられないか考えていきます。	

Group 2 発表



WHY Zero Waste Center - Kamikatsu

- This community's astonishing commitment to sorting waste into 42 categories is a model of environmental dedication.
- The residents sort their trash into 42 categories, including things like different types of metal, plastic, and even kinds of paper.
- No garbage trucks; everyone drives or walks their waste to a collection center and learns what happens to each material.
- The design of the building is in the shape of a question mark when viewed from above.
- The center consists of an office, learning space and even an on-site hotel.
- It has a free reuse shop called "Kuru kuru shop" where residents drop unwanted items and anyone can take things home at no cost.



ACTION PLAN				
DATE	ACTIVITY	LOCATION	STATUS / TIME / COST	RESPONSIBLE PERSON
18 Dec 2024	Workshop to discuss the role of the waste sorting center in the community and how to improve it.	21st Conference with members of the board	1 hour / 10000	Okada
19th February 2025	Workshop to discuss the role of the waste sorting center in the community and how to improve it.	Workshop with members of the board	1 hour / 10000	Okada

(学びや気づき)

・ゼロウェイスト上勝を訪問した際、「くるくるショップ」という子どもが付けた名前のリサイクルショップがとても印象的でした。誰かが使わなくなったものも、ほかの人にとっては必要なものだったりすることをお店として実践しているのには驚きました。

・学校交流では、実際の実験方法や航海の仕方、調査船に乗せてもらうなど、専門的な知識を学ぶ場が教育の中にあることが素晴らしいと感じました。また、食べられない魚（エイ）を活用した魚粉づくりなどに取り組んでいて、とてもユニークだと感じました。

・日本のトイレに驚愕しました。座面やウォシュレットが温かく、また水圧の強弱やセンサー、そして消毒のためのボタンがあるなど、利用する人への配慮が素晴らしいものであり、日本人のおもてなしの心やそれを形にする技術力に心を打たれました。



(アクションプラン)

・日本で学んだことを広く発信するためにも、USP 在学生のみならず高校生も招待して、JENESYS ワークショップのようなもの開催し、自分たちが主体となって取り組んでいきたいです。

・大使館へも打診して、ゼロウェイスト活動のパイロット事業のようなものを、どこか地元で取り組んでいきたいです。

Group 3 発表



ACTION PLAN 2: OUTREACH TO MARINE SCIENCE STUDENTS AT USP.

1. Contact with the students.
2. Arrange for the students to visit the Marine Science Center at USP.
3. Arrange for the students to visit the Marine Science Center at USP.

LONG TERM GOALS

- Raising Clean Ocean and Marine Environmental management awareness in rural parts of the Solomon Islands, e.g. Gasmal track of the island.

Why?

- Raising awareness in the people helps them better understand the importance of why we should always take care of our ocean, the mother environment.
- Continuously participating as an ALUMNI for the JENESYS Programme, Encouraging more success to apply.



(学びや気づき)

・ホームステイでは、1泊だけではありましたがとても温かく迎えていただき、本当に楽しかったです。また、日本の古くからの習慣を感じるだけでなく、その中にも新しいものなどが散らばっていて、新旧交えた雰囲気が調和された空間は、とて

も居心地がよかったです。

・クリーンオーシャンアンサンブルでは、イノベティブな技術をたくさん取り入れながら海洋ごみのマッピングを、小豆島の小さな地域のみならず、世界的な海洋でも実践されていて、とても学びにつながりました。

・徳島県では、県知事も市役所からもお話がありましたが、ジェンダー平等やパートナーシップに基づく解決策を見いだす等、本当にSDGsの目標を明確に意識して実践的に取り組んでいることがわかり、感銘を受けました。



(アクションプラン)

・今回の視察や訪問を通じて、海洋資源の大切さに改めて気づかされました。この思いを後世に、そして地元の子どもたちへも伝えられるよう、啓蒙的な取組だけではなく、ごみ拾いのアクションなども取り入れながら実践していきたいです。

・個人的なつながりとして、ラジオ局に勤めている友人がいるため、ラジオ番組等でも、今回の学びについて話す機会を設けたいと思います。

(報告会参加者からのコメント/総評)

・徳島市役所 課長補佐 横山 様

「今回は徳島県への訪問本当にありがとうございました。また様々な活動、お疲れ様でした。報告会の内容を聞いて、たくさんの学びや気づき、将来に生かせることを吸収されたようで、少しでもご協力できたことは大変うれしく存じます。今回学んだことを、自国に戻られてから研究や活動に取り組んでいただき、今度は皆さんが取り組んだことを、逆に私たちが学ばせてもらおう、そんな風に発展していくことを楽しみにしています。」

気候変動と防災コース（兵庫県）

参加者9名（引率1名除く）を3人グループとして3つのグループが発表した他、オンラインにて参加した5名もグループとして発表しました。

Group 1 発表



The presentation slides for Group 1 include:

- HIGHLIGHT 3**: Location/Activity: Higashi Yutachi Park/Memorial walk of the Great Hanshin-Awaji Earthquake. Why It stood out: It is a reminder to remind the day the people all experienced a great tragedy. Overall rating: 10/10.
- KEY TAKEAWAYS**:
 - Vulnerability of small nations.
 - Importance of cultural exchange.
 - Building friendships.
 - International efforts.
 - Regional Cooperation and Cohesion.
 - Appreciation of unique findings.
 - Learning the importance of Disaster Prevention plans.
 - Understanding cultural traditions and heritage.
 - The Actions and planning Japan can provide for other vulnerable countries.
- ACTION PLAN**:
 - January 26, 2026: Present to the Japan Embassy back home.
 - March 2026: Follow up on action plans.
 - January 30, 2026: Publishing an article at the baseball league journal.
 - March 2026: Follow up on action plans.

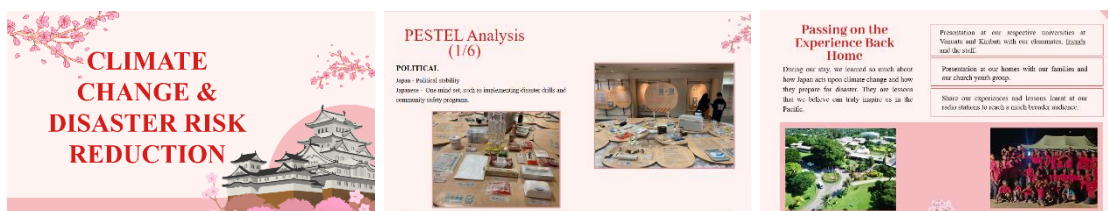
（気づきや学び）

- ・CODE 海外災害援助市民センターでの講義やディスカッションを通して、防災への事前のプランニングや取組の大切さを学んだほか、トンガの噴火災害の際には彼らからの支援もあったことを知り、とても印象に残っています。
- ・茶道体験では、その歴史や所作、講師の方々の気遣いなどから、人との調和やつながり、そして人に対する思いやりなどに感銘を受けました。
- ・震災メモリアルウォークや人と未来防災センター、そなエリア東京での体験を通じて、改めて災害の大きさを視覚的にも体系的にも知れたことが何よりよかった。

（アクションプラン）

- ・まずは身近にいる家族や友人に、今回学んだことを話したいです。“もしも”に備えることの大切さや災害直後にどのような行動をとるのかなど、小国ゆえの脆弱性なども考慮した上でのプランを作っていきます。
- ・知人に災害支援や防災に取り組む NGO を運営している知人がいるため、まずはそこに話をするとともに、日本で体験したことや得た知見などを、SNS 等を通じて発信していきたい。
- ・小さな一歩ではあるが、確実に前へ進めていくようアクションプランを実行に移していきたいと思います。

Group 2 発表



The presentation slides for Group 2 include:

- CLIMATE CHANGE & DISASTER RISK REDUCTION**: A slide with a cherry blossom background and a traditional Japanese building.
- PESTEL Analysis (1/6)**:
 - POLITICAL**: Japan - Political stability. Agenda - One hour talk, such as implementing disaster drills and emergency relief response.
 - Images showing a meeting and a presentation.
- Passing on the Experience Back Home**:
 - During our stay, we learned so much about how Japan acts upon climate change and how they prepare for disaster. They are lessons that we believe can truly inspire us in the Pacific.
 - Presentations at our respective universities at "Visitors and Residents with our classmates, friends and the staff."
 - Presentations at our homes with our families and our church youth group.
 - Share our experiences and lessons learnt at our radio interviews to reach a much broader audience.
 - Images showing a presentation and a group photo.

（気づきや学び）

- ・日本では避難訓練の実施や地域コミュニティでの安全に向けた活動など、安定している政治の影響なのかもしれないが、災害に対する備えが個人でもコミュニティでもできている（考えている）ことに感銘を受けました。
- ・そなエリアではタブレットを使って、ゲーム感覚で防災を体験することができ、誰もがわかりやすく防災について学べるよう工夫されているなと感じました。
- ・町がとてもきれいで整っているな、と来訪して改めて思いました。技術的な発展もですが、街にあるごみ箱も分類できるようになっていて、ぜひ自国にも持ち帰りたいと思いました。

(アクションプラン)

- ・日本では気候変動への対策から災害への備えまで、とてもしっかりと取り組んでいることを学びました。なので、まずは身近にいる家族や友人、学校のスタッフ等に学んだことを話す機会をもちます。
- ・SNSでの情報発信に加えて、教会のユースグループなどでもプレゼンテーションをする機会を作るほか、ラジオを使ってより広範的に伝えられるよう、帰国後に調整していきます。

Group 3 発表

(気づきや学び)

- ・茶道の精神を表す言葉である「和敬清寂」という掛け軸について説明いただき、これは人間関係や生活空間、心の持ち方など、とても日常生活にも結び付くことだとわかり、これからも心にとめておきたい言葉だと思いました。また茶道の動作にはそれぞれ意味と目的があるということを知り、この考えは防災にも役立つのではないかと感じました。
- ・災害からの復興にはとてもコミュニティの協力が大切だと感じました。自分は心理カウンセリングについても学んでいるため、建物などの復旧のみならず、被災者の心に寄り添うことの重要性を強く感じたので、非常にためになりました。

(アクションプラン)

- ・パラオでは伝承によって物事を引き継いできている歴史があります。口頭での伝承ももちろんですが、Podcastなどを使って、日本で体験し学んだことを広く伝えていきたいです。

・ JENESYS プログラムは期待以上に学びが多かったので、まずは帰国後に自分の地域の経験者等を調べ、広くプログラムの発信に寄与していきたいです。

Group オンラインチーム 発表



(気づきや学び)

・ まずはバーチャル参加できたことはとても良かったです。日本と大洋州島嶼国とのつながりとして、茶道とフィジーのカヴァはその意味が似ていて、相手への尊敬の意があったりホスピタリティ精神など、共通点があることなどがわかりました。

・ 震災メモリアルウォークでは、竹のランタンに描かれている「勇気」や「希望」などをみて、日本人の強さを感じるとともに、とても感銘しました。過去を敬い、将来を自分たちで作っていく、という意味を感じたことは学びの一つでした。

(アクションプラン)

・ 日本食のワークショップの開催や日本のアニメ上映等、日本の文化紹介を USP キャンパス内で実施して、JENESYS プログラムの宣伝につなげていきたいです。



・ その他、JENESYS 以外にも日本とつながるプログラムも多数あると思うので、そういった情報を入手、整理して発信していくことで、より日本とつながる機会を紹介していこうと思います。

(引率者からのコメント)

・ 様々なプログラム、訪問を通して、本当に多くの学びを得ることができました。このコースは防災をテーマに学んできましたが、被災したコミュニティへの寄り添う姿勢や、災害が起きた際に行動するための、身近なところから考えていく計画づくりなど、すぐにでも実践していけることだと感じています。この学びを経験しただけではなく次につなげる、実践していくことが大切だと思うので、学生ともどもしっかりとアクションプランを実行に移していきたいと思っています。

観光と日本文化コース（秋田県）

3 か国 18 名の高校生が参加した本コースでは、各国 6 名ずつが一つのグループとなり、発表を行いました。

Group 1（ツバル） 発表



（気づきや学び）

- ・（ツバルと比べて）食事や風景、気候など、様々なものが異なっていました。どれも新鮮で体験することができて良かったです。
- ・日本の方々はとても親切で礼儀正しく、街もとてもきれいに清掃されていて感動しました。

（アクションプラン）

- ・地域みんなが集まって伝統的な商品等を販売する月例マーケットにて、JENESYS ブースを出展して、なまはげコーナーや日本で撮影したビデオの上映、子ども向けのクラフトコーナー等を設けて、日本で体験したことを伝えていきたいです。
- ・小学校や中学校等を訪問して、体験談を話します。

Group 2（トンガ） 発表



（気づきや学び）

- ・神社やお寺、そして、なまはげ文化に共通することとして、「今年一年、良い年がありますように」という祈念の意が込められていました。トンガにも似たような文化があるため、とても腑に落ちました。
- ・学校交流では、日本の学生がとてもフレンドリーで積極的に話しかけてくれたので嬉しかった。その一方で、トンガ人は大柄でどっしり構えているけど、非常にシャイな部分があり、その違いについても知ることができました。

